

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	あまはれ			
○保護者評価実施期間	R 6 年 1 2 月 1 日		～	R 6 年 1 2 月 2 8 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数)	30
○従業者評価実施期間	R 6 年 1 2 月 1 日		～	R 6 年 1 2 月 2 8 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	R 7 年 2 月 1 2 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心感、満足に関する項目において100%の評価をいただいたことが、何よりの強みだと自負しております。	子どもの姿に寄り添い、「気づき」を大切にしている姿勢が、誠実な事業運営につながっています。子どもの成長発達とワークを共に考え一緒に楽しむことで、子どもの笑顔と保護者からの厚い信頼につながっています。	社会の制度や情報、子どもの変化等を常にアップデートしながら環境を整え、5領域に沿った支援内容の充実を図れるように努めてまいります。
2			
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童館や地域の子供達と活動する機会について	平素より児童館や子どもの館の利用も行っています。周知不足が要因のひとつだと考えます。	・公園などで同じ小学校の子供達との交流において、安全や言動の責任確保が難しいという課題がある。 ・あえて「交流の場」を設けるのではなく、境目のない包括的な環境作りをして交流する社会全体へのソーシャルアクションに取り組む所存です。
2	家族支援プログラムやきょうだいへの支援について	保護者支援やきょうだいに関して当たり前のこととして運営しています。ただ、事業所運営上で、トレーニングや活動、支援と名前を付けて開催の周知が必要であることを受け、研修会・情報提供の機会が必要であると考えます。	一方的な支援ではなく伴奏者としての支援を、保護者やきょうだいのニーズに寄り添い「共に」検討して参ります。
3	事故防止マニュアル、緊急対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等の策定の義務化に伴い策定しています。	保護者への周知・説明において不足を感じています。災害時の人材確保や備えの量に関して課題が残ります。避難訓練においても、地震・火災・不審者など種類ごとに行っているもののマンネリ化を防ぐために、さらに改善策が必要であると考えています。	防災意識を常に持ち、危機管理マニュアルに沿って引き続き整備に努めます。そして、災害時の二次被害を妨げるよう避難所として機能し、福祉支援が行える事業所を目指します。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 あまはれ

公表日 R7年2月13日

利用児童数 R7年2月13日

回収数 6

	チェック項目	回答状況				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	67%	33%				基準となっているガイドラインに比べても広いスペースを確保していますが、けがのないようにスペースを分けながら個々の課題に取り組むようにしています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	67			33	利用回数が少ないのでわからない。	現在の配置数は確保しながらも、増やしていくように努力します。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	67			33	利用回数が少ないのでわからない。	契約時に事業所に来ていただいて、見学及び設備等の説明をしています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	67			33	利用回数が少ないのでわからない。	生活空間（活動場所、トイレ、手洗い場等）は毎日清掃し、清潔な環境にするように心がけています。
適切な支援の提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100					子どもの気持ちを大切にし、一人一人に寄り添った関わりを目指します。関わりの中で課題が見つかった時には、全職員で話し合っ共通理解をして、支援に生かすようにします。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	67			33	利用回数が少ないのでわからない。	今後も、子ども達が興味・関心をもって取り組めるようなプログラムを提供し、内容を伝えていきたいと思っています。
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	67			33	利用回数が少ないのでわからない。	児童発達支援計画の作成時に、保護者としっかり話し合いをして、合意するように心がけていきます。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	67			33	利用回数が少ないのでわからない。	児童発達支援計画の作成時には、より具体的な支援内容であることや、達成可能なスモールステップの目標になるようにします。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	67			33	利用回数が少ないのでわからない。	児童発達支援計画の目標を意識しながら支援を行うようにしています。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	67			33	利用回数が少ないのでわからない。	子ども達の興味・関心がもてるようなプログラムを取り入れていきます。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	50			50	利用回数が少ないのでまだわからない。	現在は、事業所内で友だちと活動することが主になっていますが、今後、交流の機会を作っていきたいと考えています。
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100					今後も丁寧な説明に努めます。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100					保護者に「児童発達支援計画」を提示して説明を行うようにしています。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	50			50	利用回数が少ないのでまだ参加していません。	保護者が悩んでいることなど個人的な相談を共有し、支援するよう心がけています。研修会や情報提供については、今後の課題として取り組んでいきます。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	100				お迎えの時に、前回の様子などを教えてくださいます。	子ども達のことについて気になることがあれば、電話や送迎時などに伝え合っ共通理解するようにしています。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	50			50	利用回数が少ないので、これから面談があるのかなと思っています。	年2回の児童発達支援計画作成時に必ず面談を行っています。また、それ以外でも何かあれば、すぐに支援するよう心がけています。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100					今後も保護者の皆様と一緒に、子ども達が成長できるように支援を行っていきます。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされているか。	17	17		66	利用回数が少ないのでまだわからない。	今後、保護者や兄弟のニーズを聞き取り保護者会などの必要性を検討していきます。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	67			33	現在、事業所内で保護者が悩んでいることなどの個人的な相談を共有し、支援するように心がけていますが、今後、外部のいろいろな場を紹介するようにしていきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	67			33	いつでも保護者とは連絡が取れるようにしています。また、子どもとは活動を通して気持ちのやりとりを心がけています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	67			33	毎月、通信と行事予定を発行していますが、今後、より詳細に発信できるように努力していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	67			33	個人の書類などは、鍵のかかるロッカーに保存するなど、個人情報については細心の注意をしています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	67			33	それぞれのマニュアルはきちんと策定しています。防災訓練等も定期的に行っています。マニュアルや訓練の様子などについて、保護者に伝えていくようにしていきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	50			50	子ども達が小さいため、現在は事業所内でけがなく安全に活動することになっていますが、今後、慣れてきたら訓練を実施していきます。そのために、職員の役割分担などについて、しっかり話し合っていきたいと思っています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	50	17		33	車のシートベルトをたまにしていけない時があり、少し不安です。安全対策については、職員全員で共通理解するようにしています。危険と思われるような事案が起った時には、話し合いをするように心がけています。送迎時のシートベルト着用については徹底します。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	40			60	事故やけががまだないのでわからない。すり傷、切り傷、打ち身などのけがをした時には、その時の状況を子どもを送り届けた時に説明しています。気になる時には、電話連絡をしています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100				「今日はあまはれ？」と朝笑顔で聞いてくれます。通所の日は朝からご機嫌です。お迎えの時間前までに、自分で準備をして外で待っています。早く行きたくて仕方がない・・・そんな感じなので、とても嬉しく思っています。今後も、子ども達が安心して通えるように、職員全員で頑張っていきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	100				今日やったことを楽しそうに教えてくれます。いつもありがとうございます。今後も、子ども達が楽しく通所できるように、活動内容などを充実させていきます。また、職員一同、子ども達の気持ちに寄り添っていききたいと思っています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	100				子どもに合わせて支援してくださり嬉しいです。保護者の皆様の思いや意見に耳を傾けながら、子ども達に寄り添っていけるように、職員一同頑張っていきます。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
あまはれ		R 7 年 2 月 13 日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		やや狭いが、机の出し入れやパーティションの利用などの工夫をしています。	限られたスペースを有効活用できるように、常備する物と、片付けられる物を考えていくようにします。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100		通所する子ども達の特性に応じて、職員の配置数を考えています。	現在の配置数を確保しながら、増やしていくように努力します。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100		整理整頓を心がけ、段差をなくしてバリアフリー化をしています。子ども達によくわかるように情報を視覚化するようにしています。	子ども達が安心して過ごせるように、全体の視覚化だけでなく、個々の実態に応じた視覚化も進めていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	100		活動場所、トイレ、手洗い場などは毎日清掃し、清潔な環境にするようにしています。	スペースがやや狭いために、課題に取り組む場所と自由に活動する場所の範囲をわかりやすくしていくことを考えていきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	80	20	個別の場所が必要な子どももいるので、一ヶ所視界が遮られる個室を用意しています。	出入り口の戸を開けてしまうと中の様子がわからないので、少し中が見えるようにして常に職員を意識を向けていくようにします。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100		課題が見つかったら、当日あるいは翌日に職員全体に報告し、共通理解をするようにしています。	職員の勤務時間や休みの日が異なるため、報告事項の伝達が徹底できるようにしていきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100		保護者の評価結果を基に、職員全体で検討する機会を設けています。	研究会など、外部の協力を得る機会をどのように企画していくかを、検討する必要があります。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100		毎週月曜日に職員会をして、意見交換の場に行っています。できる改善については、すぐに対応するようにしています。	職員会に参加できない職員もいるため、会議録などで伝達するようにしていますが、さらに徹底できるようにします。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		100	他の事業者などに聞いたりアドバイスしてもらったりして、業務改善につなげています。	現在のところ、第三者による正式な外部評価を受けるといったことには至っていません。今後考えていきたいと思っています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100		外部の研修会に職員を派遣し、研修したことを職員会などで伝えるようにしています。	幅広い研修会の情報を入手することに努め、新しい情報を取り入れていきます。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100		制作、運動、体験など、いろいろなプログラムを考え実施しています。毎月保護者に予定表を配布しています。	プログラムの内容が、同じものばかりにならないよう、新しい活動を取り入れていくようにします。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100		個々の子どもに対してアセスメントは行っています。子どもと保護者からの聞き取りの後、職員全員で話し合いをしています。	客観的に分析できているかについては、日々の支援の中で振り返りをしながら、見直していくようにしていきたいです。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100		児童発達支援計画の作成時には、子どもの支援に関わる全ての職員が検討の場に参加して検討するようにしています。	職員は子どもの担当を決めずに関わるようにしていますが、関わりが少ない場合もあります。今後は、いろいろな子どもと関わりを深められるようにしていきます。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100		児童発達支援計画の作成時には、子どもの支援に関わる全ての職員が検討の場に参加して検討することで支援内容を共有し、支援を行っています。	実際に支援するなかで、支援計画を変更しなければならぬケースが出た時に、職員間の共有の仕方考えます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100		一日の支援が終わった時に、特に気になった行動などについて報告しあうようにしています。	子どもの行動確認の把握には努めていますが、記録にまとめることはできていません。記録のとり方を考えていきます。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100		「本人支援」などのねらいを踏まえながら、ガイドラインに沿って作成しています。支援内容については、できるだけ具体的にしています。	支援内容を具体化することが難しい場合があります。研修していきたいと思っています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100		係が立案し、職員全体で検討しています。	係だけでは大変なので、職員が個々で情報入手して係に伝えるようにしていますが、どのようなところから情報入手すればいいのかが難しいです。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100		継続するプログラムに、新しいプログラムを入れながら、固定化しないようにしています。	子どもによって、好きなプログラムが違うため、プログラムの組み方が難しいことがあります。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100		個別の課題に取り組むことと、友だちと一緒に活動することなどを組み合わせるようにしています。	現在は、個別活動を中心に職員との関係作りをしています。今後は、集団活動を入れていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100		個別の課題に取り組む支援者等の確認をしています。	マンツーマンでない場合もあるので、支援が難しい場合があります。支援しやすいような体制を考えていくようにします。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100		支援する中で、気になったことや気をつけなければならないことがあると、できるだけその日うちに報告するようにしています。	帰宅時に問題が起こると対応が難しい場合があるので、対応を考えていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	80	20	毎日、活動記録をつけています。	定期的に記録を見直して、支援の検証・改善に役立てていきたいと思っています。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100		年2回のモニタリングを実施して、見直すようにしています。	年2回に限らず、必要に応じてモニタリングや保護者の相談に応じ、随時、支援計画を見直していきます。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100		子どもだけでなく、保護者の願いなども理解した職員が参加しています。	話し合いのなかで、こちらの意見が伝えられないことがあります。伝えていけるように努力していきます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100		それぞれの機関と連携がとれるように、体制作りはできています。	家庭での困りごとがあった場合、どの機関に相談すればいいのか難しい場合があります。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	80	20	保育所、小学校、特別支援学校等の担任や関係機関との話ができる機会があればするようにしています。	担任と出会えない場合もあるので、よりよい情報交換ができるように努力していきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100		担任に挨拶をして、顔合わせをするようにしています。また、ケース会議などに参加させていただいて、情報共有や相互理解を図っています。	担任と出会えない場合もあるので、よりよい情報交換ができるように努力していきます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		100	まだそのような機会は設けていません。	外部の機関の研修の活用や助言を受ける機会を作っていきたいと思っています。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		100	地域の公園で、他の子どもと一緒に活動する機会を作っています。	保育所や認定こども園、幼稚園との交流はできていないので、今後の課題として取り組んでいきたいです。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100		送迎時などに、保護者と共通理解を図るようにしています。大切なことは、会って話をさせていただくようにしています。	今後も、普段から会話ができるようにしていきます。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	60	40	現在はきょうだい支援のみを行っています。	家族支援プログラムや保護者対象の研修会の開催はできていません。今後、取り組んでいきたいと思っています。	
保	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100		事業所の利用契約をする時に、説明するようにしています。	事業所の利用契約をする時に、説明するようにしています。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100		児童発達支援計画の作成時には、保護者と面談して、一緒に作っていくようにしています。	児童発達支援計画の作成時だけでなく、子どもや家族の意向を確認する機会を作りにしていきます。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100		児童発達支援計画の作成時には、保護者と面談して、一緒に作っていくようにしています。	モニタリングをして「支援計画(案)」の時点で説明し、保護者の意向を伺います。足りない所を訂正、加筆して、ケース会議で職員の意見も加味して支援計画を立案し、同意をいただいています。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100		子育ての悩み等がある保護者については、事業所に来ていただいたり自宅に向かいしたりして、支援を行うようにしています。	必要に応じて、面談を行いたいと思っています。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	60	40	現在は、きょうだい支援を行っています。	保護者のニーズが様々なため、保護者会や保護者が交流する機会を設けるには至っていません。今後の課題として取り組んでいきたいと思っています。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100		子どもや保護者からの相談や申し入れがあった場合は、対応するようにしています。	事業所だけの対応で支援できる場合は、迅速に対応しています。事業所だけで支援できない場合については、どのような機関を利用すればいいかを、研修していきたいと思っています。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100		毎月、保護者には予定表と活動表を配布しています。	HPの活用を考えていきたいと思っています。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100		個人情報については、事務所の鍵のかかるロッカーに保管して、持ち出さないようにしています。	現在も十分注意していますが、個人情報については、事務所以外に持ち出しをしないことを徹底します。また個人情報についても絶対に口外しないようにします。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100		子ども達には、情報を文字や写真などで提示するようにしています。	子ども達には、個別の情報提示などをするようにしたいと思っています。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		100	ハロウィン等行事において、地域との交流を図っています。	事業所の運営について、今後も地域の方に知っていただけるように努力していきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100		いろいろなマニュアルを作成して、職員で研修しています。発生を想定した訓練を、毎年行っています。	保護者には、訓練の様子などを写真などで伝えるようにしていますが、詳しい内容について、丁寧に説明していくようにします。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100		業務継続計画（BCP）は策定しています。発生を想定した訓練を、毎年行っています。	訓練については、いろいろな場面やパターンが考えられるので、今後の課題として取り組んでいきます。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100		保護者との面談の中で確認しています。	てんかん発作等が起きた時の対応や役割分担については、定期的に確認するようにしていきます。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100		保護者との面談の中で確認しています。対応についても、対応できるように研修しています。	食物アレルギーが起きた時の対応や役割分担については、定期的に確認するようにしていきます。調理については、細心の注意をしていきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	80	20	安全計画を作成し、職員は安全管理に関する研修をしています。	安全が不十分であると気づいた時は、すぐに対応して安全確保に努めます。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100		送迎時や活動の中で気になることがあれば保護者に報告します。家庭での様子を聞いたりしながら、対応を検討していきます。	安全が不十分であると気づいた時は、保護者へ報告し、連携しながら安全確保に努めます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100		ヒヤリハットが起こった時は、職員に報告した後検討し、記録に残すようにしています。	ヒヤリハットが起こった状況にならないように、活動前に確認します。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100		どんなことが虐待に当たるのかなどの研修を行い、子どもへの接し方や声かけの仕方について共通理解をしています。	職員の行動や声かけ（言葉）で気になることがあれば、職員同士で指摘し合うようにしていきます。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	100		職員全体で身体拘束をしなければならないケースの確認をしています。保護者には身体拘束について確認し、了解を得るようにしています。	現在、対象の子どもはいません。	

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	あまはれ			
○保護者評価実施期間	R 6 年 1 2 月 1 日		～	R 6 年 1 2 月 2 8 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数)	30
○従業者評価実施期間	R 6 年 1 2 月 1 日		～	R 6 年 1 2 月 2 8 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	R 7 年 2 月 1 2 日			

○ 分析結果

	事業所の強み (※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心感、満足に関する項目において100%の評価をいただいたことが、何よりの強みだと自負しております。	子どもの姿に寄り添い、「気づき」を大切にしている姿勢が、誠実な事業運営につながっています。子どもの成長発達とワークを共に考え一緒に楽しむことで、子どもの笑顔と保護者からの厚い信頼につながっています。	社会の制度や情報、子どもの変化等を常にアップデートしながら環境を整え、5領域に沿った支援内容の充実を図れるように努めてまいります。
2			
3			

	事業所の弱み (※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童館や地域の子ども達と活動する機会について	平素より児童館や子どもの館の利用も行っています。周知不足が要因のひとつだと考えます。	・公園などで同じ小学校の子ども達との交流において、安全や言動の責任確保が難しいという課題がある。 ・あえて「交流の場」を設けるのではなく、境目のない包括的な環境作りをして交流する社会全体へのソーシャルアクションに取り組む所存です。
2	家族支援プログラムやきょうだいへの支援について	保護者支援やきょうだいに関して当たり前のこととして運営しています。ただ、事業所運営上で、トレーニングや活動、支援と名前を付けて開催の周知が必要であることを受け、研修会・情報提供の機会が必要であると考えます。	一方的な支援ではなく伴奏者としての支援を、保護者やきょうだいのニーズに寄り添い「共に」検討して参ります。
3	事故防止マニュアル、緊急対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等の策定の義務化に伴い策定しています。	保護者への周知・説明において不足を感じています。災害時の人材確保や備えの量に関して課題が残ります。避難訓練においても、地震・火災・不審者など種類ごとに行っているもののマンネリ化を防ぐために、さらに改善策が必要であると考えています。	防災意識を常に持ち、危機管理マニュアルに沿って引き続き整備に努めます。そして、災害時の二次被害を妨げるよう避難所として機能し、福祉支援が行える事業所を目指します。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日					回収数	
あまはれ		R 7 年 2 月 1 3 日					24	
		利用児童数					R 7 年 2 月 1 3 日	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	88%	8%		4%	体育館や公園に行って体を動かす機会があるのはありがたいです。	少し狭いが、活動内容を考えることでスペース内で活動できています。事業所内だけでは活動量に限りがあるため、事業所外での活動を取り入れながら、活動量を確保しています。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	100					現在の配置数は確保しながらも、増やしていくように努力します。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	83	4		13	施設内に入る機会がほとんどないのでよくわかりません。	契約時に事業所に来ていただいて、見学及び設備等の説明をしていきたいと思ひます。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100					生活空間（活動場所、トイレ、手洗い場等）は毎日清掃し、清潔な環境にするように心がけています。	
適切な支援の提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100					子どもの気持ちを大切にし、一人一人に寄り添った関わりを目指します。関わりの中で課題が見つかった時には、全職員で話し合って共通理解をして、支援に生かすようにします。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100					今後も、子ども達が興味・関心をもって取り組めるようなプログラムを提供していけるように努力します。	
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100					個別支援計画の作成時に、保護者としっかり話し合いをして、合意の上で作成するように心がけています。	
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100					放課後等デイサービス計画の作成時には、より具体的な支援内容であることや、達成可能なスモールステップの目標になるようにします。	
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100					放課後等デイサービス計画の目標を意識しながら支援を行うようにしています。	
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	96	4			いろいろな体験をさせてもらっていると思う。	子ども達の興味・関心もてるようなプログラムを取り入れていきます。	
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	39	16	4	46		地域活動（体操）の参加や児童館の利用をしていますが、その他にも交流できる場を作っていきたいと考えています。	
保護者へ	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100				しっかりと説明がありました。	今後も丁寧な説明に努めます。	
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100					保護者に「支援計画（案）」の時点で説明し、合意を得てその後、個別支援計画作成会議で検討し、それを反映した支援計画を完成させてお渡ししています。	
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	42	25	8	25		保護者が悩んでいることなど個人的な相談を共有し、支援するように心がけています。研修会や情報提供については、今後の課題として取り組んでいきます。	
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	100					子ども達のことについて気になることがあれば、電話や送迎時などに伝え合って共通理解するようにしています。	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	100					半年毎に面談を行っています。また、それ以外でも何かあれば、すぐに支援するように心がけています。	
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100					今後も保護者の皆様と一緒に、子ども達が成長できるように支援を行っていきます。	

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5	13	17	65	今後、保護者や兄弟のニーズを聞き取り保護者会などの必要性を検討していきます。きょうだいのイベント参加や支援も行っていますが、発信できていないので周知に至っていません。今後、発信することを検討します。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	92	4		4	現在、事業所内で保護者が悩んでいることなどの個人的な相談を共有し、支援するように心がけています。また、外部のいろいろな場も紹介しています。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100				いつでも保護者とは連絡が取れるようにしています。また、子ども達とは活動を通して気持ちのやりとりを心がけています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	87	9		4	毎月、通信と行事予定を発行していますが、今後、より詳細に発信できるように努力していきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	87	4		9	個人の書類などは、鍵のかかるロッカーに保存するなど、個人情報については細心の注意をしています。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	65	13		22	それぞれのマニュアルはきちんと策定しています。防災訓練等も定期的に行っています。マニュアルや訓練の様子などについて、保護者に伝えていくようにしています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	74	13		13	火災、台風や水害などの非常災害や、不審者対応などの訓練を定期的に行っています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	87	4		9	安全対策については、職員全員で共通理解するようにしています。危険と思われるような事案が発生した時には、話し合いをするように心がけています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	83			17	すり傷、切り傷、打ち身などのけがをした時には、その時の状況を子どもを送り届けた時に説明しています。気になる時には、電話連絡をしています。
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100				先生方との信頼関係も築けており、本人も安心して通えています。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	96	4			とても楽しみにしていてこちらも嬉しいです。「やったー今日はあまはれや」と楽しみにしています。あまはれさんに行くのを毎週楽しみにしています。何日も前から楽しみにしています。様々なイベントがあったりするので楽しみにしています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	100				保護者の皆様の思いや意見に耳を傾けながら、子ども達に寄り添っていきけるように、職員一同頑張っています。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		あまはれ				公表日	R 7 年 2 月 13 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		やや狭いが、机の出し入れやパーティションの利用などの工夫をしています。	限られたスペースを有効活用できるように、常備する物と、片付けられる物を考えていくようにします。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	100		通所する子ども達の特性に応じて、職員の配置数を考えています。	現在の配置数を確保しながら、増やしていくように努力します。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100		整理整頓を心がけ、段差をなくしてバリアフリー化をしています。子ども達によくわかるように情報を視覚化するようにしています。	子ども達が安心して過ごせるように、全体の視覚化だけでなく、個々の実態に応じた視覚化も進めていきます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100		活動場所、トイレ、手洗い場などは毎日清掃し、清潔な環境にするようにしています。	スペースがやや狭いために、課題に取り組む場所と自由に活動する場所の範囲をわかりやすくしていくことを考えていきます。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	80	20	個別の場所が必要な子どももいるので、一ヶ所視界が遮られる個室を用意しています。	出入口の戸を開けてしまうと中の様子が見えないので、少し中が見えるようにして常に職員の意識を向けていくようにします。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100		課題が見つかったら、当日あるいは翌日に職員全体に報告し、共通理解をするようにしています。	職員の勤務時間や休みの日が異なるため、報告事項の伝達が徹底できるようにしていきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100		保護者の評価結果を基に、職員全体で検討する機会を設けています。	研修会など、外部の協力を得る機会をどのように企画していくかを、検討する必要があります。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100		毎週月曜日に職員会をして、意見交換の場に行っています。できる改善については、すぐに対応するようにしています。	職員会に参加できない職員もいるため、会議録などで伝達するようにしていますが、さらに徹底できるようにします。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		100	他の事業者などに聞いたりアドバイスしてもらったりして、業務改善につなげています。	現在のところ、第三者による正式な外部評価を受けるということには至っていません。今後考えていきたいと思っています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100		外部の研修会に職員を派遣し、研修したことを職員会などで伝えるようにしています。	幅広い研修会の情報を入手することに努め、新しい情報を取り入れていきます。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100		制作、運動、体験など、いろいろなプログラムを考え実施しています。毎月保護者に予定表を配布しています。	プログラムの内容が、同じものばかりにならないよう、新しい活動を取り入れていくようにします。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100		個々の子どもに対してアセスメントは行っています。子どもと保護者からの聞き取りの後、職員全員で話し合いをしています。"	客観的に分析できているかについては、日々の支援の中で振り返りをしながら、見直していくようにしていきたいです。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100		児童発達支援計画の作成時には、子どもの支援に関わる全ての職員が検討の場に参加して検討するようにしています。	職員は子どもの担当を決めずに関わるようにしていますが、関わりが少ない場合もあります。今後は、いろいろな子どもと関わりを深められるようにしていきます。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100		児童発達支援計画の作成時には、子どもの支援に関わる全ての職員が検討の場に参加して検討することで支援内容を共有し、支援を行っています。	実際に支援するなかで、支援計画を変更しなければならぬケースが出た時に、職員間の共有の仕方考えます。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100		一日の支援が終わった時に、特に気になった行動などについて報告しあうようにしています。	子どもの行動確認の把握には努めていますが、記録にまとめることはできていません。記録のとり方を考えていきます。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100		「本人支援」などのねらいを踏まえながら、ガイドラインに沿って作成しています。支援内容については、できるだけ具体的にしています。	支援内容を具体化することが難しい場合があります。研修していきたいと思っています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100		係が立案し、職員全体で検討しています。	係だけでは大変なので、職員が個々で情報を入力して係に伝えるようにしていますが、どのようなところから情報を入力すればいいのかが難しいです。	

の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100		継続するプログラムに、新しいプログラムを入れながら、固定化しないようにしています。	子どもによって、好きなプログラムが違うため、プログラムの組み方が難しいことがあります。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100		個別の課題に取り組むことと、友だちと一緒に活動することなどを組み合わせるようにしています。	現在は、個別活動を中心に職員との関係作りをしています。今後は、集団活動を入れていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100		個別の課題に取り組む支援者等の確認をしています。	マンツーマンでない場合もあるので、支援が難しい場合があります。支援しやすいような体制を考えていくようにします。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100		支援する中で、気になったことや気をつけなければならないことがあると、できるだけその日うちに報告するようにしています。	帰宅時に問題が起こると対応が難しい場合があるので、対応を考えていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	80	20	毎日、活動記録をつけています。	定期的に記録を見直して、支援の検証・改善に役立てていきたいと思っています。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100		年2回のモニタリングを実施して、見直すようにしています。	年2回に限らず、必要に応じてモニタリングや保護者の相談に応じ、随時、支援計画を見直していきます。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100		常に意識するように、目につく所に掲示しています。	定期的に「4つの基本活動」が支援に組み込まれているかを検討します。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100		活動の中で、自分で決めたり選択したりする場面を設定し、その気持ちを尊重した支援に心がけています。	自己選択ができるように、画一的な活動ではなく、いろいろな選択肢のある活動を用意します。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100		サービス担当者会には、児童発達支援管理責任者が出席しています。	子どもについて、大切にしたいことや必要なことなどを認識に開きがある場合、どのように話していくかを考えていきたい。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100		課題や問題が起こった時に、連携していく機関は確認しています。	今後、実際に連携していけるようにします。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100		契約時に、学校とは連絡を取って事業所利用を伝え、送迎時のことなどの打ち合わせを行っています。	現在は、保護者から行事予定などを教えていただいておりますが、今後は、連携を密にしていきたいと思っています。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	20	80	利用開始時や日々の子どもの様子は共有しています。	小学校から利用する子どもについては、就学前に行っていた保育園等とは連携することは難しいところがあります。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		100	移行時に向けて、支援計画、や利用時の記録等を、整理して保存するようにしています。	今まで高校を卒業するケースがなかったので、情報提供をすることはありませんでしたが、今後、円滑な移行支援ができるよう十分な情報を提供します。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		100	研修案内を回覧しています。	今後、助言や研修を受ける機会を設けていきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	100		児童センターへは積極的に出かけて行き、地域の子ども達との交流を図っています。	子ども達はいろいろな地域から来ているので、全部の地域とつながることは難しいところがあります。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。		100		今年度は参加できていないので、来年度は積極的に参加したいと思っています。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100		送迎時などに、保護者と共通理解を図るようにしています。大切なことは、会って話をさせていただくようにしています。	今後も、普段から会話ができるようにしていきます。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	60	40	現在はきょうだい支援のみを行っています。	家族支援プログラムや保護者対象の研修会の開催はできていません。今後、取り組んでいきたいと思っています。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100		事業所の利用契約をする時に、説明するようにしています。	事業所の利用契約をする時に、説明するようにしています。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100		保護者とのモニタリングの実施の後、「支援計画書（案）」を作成し説明をします。合意が得られると、個別支援計画作成会議で検討します。	今後も、子どもや家族の意思を尊重し、十分に話し合いをした上で、支援計画を作成していきます。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100		支援計画の作成時には、保護者と面談して、一緒に作っていくようにしています。	モニタリングをして「支援計画（案）」の時点で説明し、保護者の意向を伺います。足りない所を訂正、加筆して、ケース会議で職員の意見も加味して支援計画を立案し、同意をいただいています。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100		子育ての悩み等がある保護者については、事業所に来ていただいたり自宅に向いたりして、支援を行うようにしています。	必要に応じて、面談を行いたいと思います。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	60	40	現在はきょうだい支援のみを行っています。	保護者のニーズが様々なため、保護者会や保護者が交流する機会を設けるには至っていません。今後の課題として取り組んでいきたいと思っています。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100		子どもや保護者から苦情があった時はしっかり聞き取りをして、職員全員で解決できるように話し合いをしています。	苦情の原因や要因をしっかりと把握して、今後の対応を検討します。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100		毎月、保護者には予定表と活動表を配布しています。	HPの活用を考えていきたいと思っています。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100		個人情報については、事務所の鍵のかかるロッカーに保管して、持ち出さないようにしています。	現在も十分注意していますが、個人情報については、事務所以外に持ち出しをしないことを徹底します。また個人情報についても絶対に口外しないようにします。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100		子ども達には、情報を文字や写真などで提示するようにしています。	子ども達には、個別の情報提示などをするようにしたいと思っています。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		100	ハロウィン等行事において、地域との交流を図っています。	事業所の運営について、今後も地域の方に知っていただけるように努力していきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100		いろいろなマニュアルを作成して、職員で研修しています。発生を想定した訓練を、毎年行っています。	保護者には、訓練の様子などを写真などで伝えるようにしていますが、詳しい内容について、丁寧に説明していくようにします。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100		業務継続計画（BCP）は策定しています。発生を想定した訓練を、毎年行っています。	訓練については、いろいろな場面やパターンが考えられるので、今後の課題として取り組んでいきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100		保護者との面談の中で確認しています。	てんかん発作等が起きた時の対応や役割分担については、定期的に確認するようにしていきます。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100		保護者との面談の中で確認しています。対応についても、対応できるように研修しています。	食物アレルギーが起きた時の対応や役割分担については、定期的に確認するようにしていきます。調理については、細心の注意をしていきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	80	20	安全計画を作成し、職員は安全管理に関する研修をしています。	安全が不十分であると気づいた時は、すぐに対応して安全確保に努めます。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100		送迎時や活動の中で気になることがあれば保護者に報告します。家庭での様子を聞いたりしながら、対応を検討していきます。	安全が不十分であると気づいた時は、保護者へ報告し、連携しながら安全確保に努めます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100		ヒヤリハットが起こった時は、職員に報告した後検討し、記録に残すようにしています。	ヒヤリハットが起こった状況にならないように、活動前に確認します。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100		どんなことが虐待に当たるのかなどの研修を行い、子どもへの接し方や声かけの仕方について共通理解をしています。	職員の行動や声かけ（言葉）で気になることがあれば、職員同士で指摘し合うようにしていきます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100		職員全体で身体拘束をしなければならないケースの確認をしています。保護者には身体拘束について確認し、了解を得るようにしています。	現在、対象の子どもはいません。	